



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第50期生の皆さん、口腔生命福祉学科第13期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日もでたくご卒業される皆さんに、歯学部教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、保護者、ご家族の皆様方のご尽力にも敬意を表するとともに、お喜び申し上げます。

卒業生の皆さんは、新潟大学歯学部の教育課程を修了し、この春から、さまざまな道に進まれます。各人の進む道は異なるものの、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

新潟大学歯学部は設置後50有余年となりました。設立後50年の間に、社会状況は大きく変化し、また変化し続けています。一つのキーワードとして、「超高齢社会の到来」があります。今までの歯科医療も健常者型から高齢者型へ転換することが求められています。また「グローバル化 globalization」もあります。グローバル化への対応は単に英語でコミュニケーションをとることだけでなく、異文化、自分と異なる価値観を持つ人達の理解、すなわち多様性 diversity の理解です。グローバル化が進む現代社会で活躍するためには、異文化適応性 adaptability to cross culture、言語能力 ability in language、法令遵守 compliance、そして専門能力 ability in specialty といわれています。皆さんのこれからの活躍には、専門能力を常に高め、維持することが不可欠なことはいうまでもありません。

政府は、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、我が国が目指すべ

き未来社会 Society 5.0 を提唱しています (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)。Society 5.0 の目指すところは、IoT (Internet of Things) や人工知能 (artificial intelligence : AI) を活用し、これまでの情報社会 (Society 4.0) での課題を解決し、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などのさまざまな現代社会の課題の克服です。

皆さんが卒業する新潟大学歯学部の運営は国民の税金により行われています。タックスペイヤーである国民は皆さんに対し、常に幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感を求め続けます。また専門的知識や技術を維持・向上させる責任も求めるため、皆さんにはさらに一層の平日頃の精進が不可欠となります。皆さんが社会から認められるためには、今日この日に、改めてこれからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。

本日、新たな夢を胸にスタートラインに立つ皆さんを、我々教職員一同はこれからも応援していきたいと思えます。卒業する皆さんには、折を見て母校を訪ね、また生涯の学習の場として、これからも新潟大学歯学部を積極的に活用していただけるように願っています。皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は素晴らしい教育資源を有し、国内外から高い評価を受けています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能、態度を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持ち、活躍して下さい。皆さんの今後の活躍を大いに期待してします。



卒業を祝して

医歯学総合病院 副院長 小林 正 治（歯科担当）

歯学科第50期生ならびに口腔生命福祉学科第13期生の皆さん、卒業誠におめでとうございます。皆さんが新潟大学歯学部において勉学に励まれ、すべての課程を修了されて晴れて学士の学位を授与されました栄誉をここに称えますとともに、光り輝く未来に対して心から祝福を申し上げます。また、この日に至るまでの長い年月、皆さんの勉学を支えてこられたご家族の皆様方に対しましても、敬意と感謝の意を表します。

皆さんの大学生生活は、いかがでしたでしょうか？友人はたくさんできましたでしょうか？大学での授業は、知識を吸収することが中心であった高等学校までの学習とはまったく異質な学びの体験であったと思います。学問とは、答えの用意されていない課題に対して、自ら調べ考えたことを論理的に整理し、結論を与えていくプロセスです。そして、大学での学びを通して、皆さんは物事を考える視野の広がりや知識の豊かさ、正しい判断力や理解力を養い、人間としても大きく成長したはずで、皆さんが新潟大学で何を学んだのかを今一度反芻し、心に深く刻み込んで下さい。それは皆さんのこれからの人生において活力の源泉となるとともに、道標となるはずで、そして、皆さんが医療人としてさらに大きく育つためには、これまでに得た知識や技術を基礎として、その上にこれから何を積み重ねていくかが勝負に

なります。

近年、2040年問題が議論されています。これは、2040年に高齢者人口がピークを迎えることから、特に医療や介護の分野で厳しい環境が予測されるというものです。日本歯科医学会においても、歯科界が率先してその予測を覆す目標を掲げ、具体策を練り実行する事業を推進するために「2040年への歯科イノベーションロードマップ」の作成事業が行われております。今後、医療の分野においては、病診連携、医科歯科連携そして多職種連携をキーワードとして地域医療の連携強化が推進されるとともに、高度医療の実現や未来型医療の新たなイノベーションが創出されてくるものと思われ、これから20年後、皆さんは働き盛りの40歳台となり、日本の社会を支える中心世代となります。新たな時代を生き抜き、そして光り輝き続けるためにも、皆さんには広い視野を持って、医療ニーズの変化に的確に対応するとともに、知的好奇心を失うことなく、一步一步努力を重ねていただきたいと思っております。

皆さんは、これから様々な分野で活躍されることと思いますが、新潟大学歯学部ならびに医歯学総合病院歯科診療部門は皆さんを全面的に支援します。そして、卒業される皆さんも、母校である新潟大学を未永く愛して下さいますよう心より願っています。

卒業にあたり

歯学科6年 馬場麗未

今回この原稿を依頼されたことをきっかけに、改めて歯学部で過ごした6年間を振り返りました。私は小学生のころから歯科医師になるのが夢でした。そのきっかけはありがちなものですが、歯科医の先生に助けてもらったからです。私は歯並びが悪く矯正治療する前は、人前で笑うときには必ず手で口元を押さえていました。しかし治療をしたことで、今では人の目を気にせず思いっきり笑うことができるようになりました。口元にコンプレックスや悩みを持つ人に力になりたい、そんな思いから歯学部を目指すようになりました。そのため新潟大学歯学部合格したときの喜びは今でも忘れません。

親元を離れて、知らない土地で生活していくことに不安を感じていた大学1年目。しかしその不安はすぐにはなくなりました。それは6年間をともに過ごしてきた50期の存在があったからです。落ち着きがなく先生方にも沢山ご心配をおかけする学年でしたが、団結する時には力を貸してくれるし、支えになってくれます。6年間一緒にいたからこそ、いいところも悪いところも沢山知っています。大人になると友達が減ると言いますが、大学時代にこれから一生付き合っていきたいと思える友人に出会えたのは本当に財産です。

また部活では中学から続けていたテニスをするため硬式テニス部に入部しました。いい意味で先輩後輩の距離感がなく、和気あいあいと過ごせたのは本当に幸せでした。大会ではいい結果を残すことはできませんでしたが、勝利に向けて頑張っ

た努力や悔しさ、チームをまとめる責任感など沢山学ぶことができました。ここで学んだことは今後、社会で生きていく上で絶対に役に立つと思います。

学業については日々学習でした。その中でもやはり一番思い入れがあるのは、1年間の臨床実習です。新潟大学ならではのこの実習。患者さんを前にして、自分の知識や技術のなさを痛感する毎日でした。しかし、日に日に患者さんとの信頼関係が強くなり、完成した補綴物を装着したときに「ありがとう！若返ったみたい！」と言われました。その時私は、「ああ…自分が歯科医師になりたいと思ったきっかけってこういうことだったな」と改めて感じさせられました。自分が目指す歯科医師像を再確認する良い機会を与えてくださったと、本当に感謝しています。

これから一番の目標である国家試験が待ち構えています。正直不安だらけです。でも悔いが残らないよう一生懸命にやるだけだと思います。それがいい結果につながることを期待してこの原稿を締めくくりたいと思います。6年間本当にお世話になりました。



卒業にあたり

歯学科6年 野村 隆之



歯学部在学中の6年で、最後の1年は最も濃密で忙しく感じ、矢のように過ぎて行きました。特に5年後期からの臨床実習では、座学や基礎実習では習得できないような知識・技能が必要になり、最も学べることが多い実習だったと思います。患者様とのコミュニケーションにおいては、自分がまず説明する内容を理解しており、それを患者様の理解度を把握しながら話を組み立てる必要があります。また、患者様一人ひとりの状況を把握し、それぞれに適した治療を提案する難しさもありました。そのどちらにおいても、ライターの先生方がどのように対応なさっているかを見るのはとても勉強になり、研修より1年早く、時間をかけて取り組めたのはとても貴重な経験になったと思います。まだ未熟ではありますが、研修への準備として良いステップを踏めたと思っています。

臨床実習ではどうしてもわからないことがあり、壁にぶつかることが何度もありましたが、似たような状況を経験した同期生がいて、あっさり解決したりしました。患者様は十人十色であり、隣の席の同期生だけでは全く違う症例かもしれませんが、同期生40人の中には経験している人がきつといます。これから臨床実習に臨む在学生の皆様にも、聞くは一時の恥と思って、壁にぶつかったまま悩まずに、人の知識を取り入れて最も良い方法を貪欲に探して欲しいと思います。

国家試験の勉強においても、臨床実習はとても役立ちます。実際に行った診療の手順はもちろん、患者様、ライターの先生方、同期生と話した

内容はかなり記憶に残りやすく、問題集に出た時も、あの時話した内容だなあとしみじみ感じながら解くことができます。5年生までに覚えた知識も、同期生と話すとう理解が足りない部分が見つかるし、逆に相手が分かっていないこともあります。どれだけ教えても自分の知識が減ることはないので、積極的に情報交換をしてください。知識は誰にも奪われることのない財産です。臨床実習では人とのコミュニケーションを通してお互いの知識を確認し合い、足りない部分を補い合う、まさしく“研鑽”を行う場であったと思います。

臨床実習を無事に終えて卒業でき、とてもほっとしてはいますが、長い間ともに歩んできた同期生がそれぞれの道に分かれて進んでいくことを思うと少し寂しくも感じます。卒業後、研修後はさらに同期生が少なくなって、同じ知識レベルの相手と教えあうことは少なくなると思いますが、先生方にご指導いただいて貪欲に知識を深め、立派な歯科医師になれるよう努力します。同期のみんなとは、別々の環境でもそれぞれの研鑽を積み、時々会える機会に胸を張ってお互いの研鑽を見せ合えるような、良き仲間でありライバルであれたらいいと思います。

最後になりますが、お世話になった先生方、ならびに支えてくださった皆様、6年間本当にありがとうございました。



卒業にあたり

口腔生命福祉学科4年 藤井 梨紗子

口腔生命福祉学科に入学し、4年が過ぎ、卒業の時期となりました。振り返ってみると本当にあっという間の4年間であったように感じます。特に最後の4年次は、臨床実習や福祉実習と並行しての特論、就職活動、国試対策という想像以上に大変な1年間でした。

臨床実習では、診療補助やPMTC等をさせていただき、毎日多くを学ぶことができました。同時に、自分のできなさ、未熟さ、勉強不足を痛感する日々でもありました。しかし、先生方や歯科衛生士さんのご指導により実習が進んでいくにつれ、だんだんとスムーズにできることも増えていき、やりがいを感じることもできるようになりました。実習で学んだことをしっかりと今後に活かしていきたいと思います。

福祉実習では、地域包括支援センター関屋・白新で実習させていただきました。職員の方々、利用者さん、地域の方々が大変温かく対応してくださったことが強く印象に残っています。お茶の間やケア会議等、様々な場所にも同行させていただき、問題の解決のために様々な職種、立場の人が連携することの重要性や福祉の現場で働く方々の姿勢など丁寧なご指導の下、机上の学習だけでは学ぶことのできないことを学習することができました。

3年次には、タイのタマサート大学にて短期留学をさせていただきました。2週間という短い時間でしたが、タイと日本の歯科医療の違いや文化の違いを学び、また現地の学生と交流することも

でき、大変貴重な体験となりました。

また所属していた歯学部バドミントン部では、夏に行われるオールデンタルで、熊谷や岡山、福岡に行き、約一週間、部員と共に過ごしたことや他大学との交流ができたことは良い思い出となっています。先輩、同期、後輩に恵まれ、バドミントンをしたり、旅行に行ったり、飲み会をしたり、充実した日々を過ごすことができました。

実習が続く毎日は体力的にも精神的にも大変な日々ではありましたが、休憩時間や実習終わりに同期のみんなと他愛もない会話をしたり、一週間の実習が終わる木曜日にみんなで飲みに行ったりいう日常は幸せな充実した時間でした。卒業が近づくにつれてそんな同期のみんなとの時間も終わってしまうと考えるととても寂しく感じます。13期のみんなと4年間を共に過ごすことができたことは私の財産です。

最後になりますが、お世話になった先生方をはじめ、大学生活で出会ったすべての方々に感謝しています。本当に楽しい大学生活でした。これから歯科衛生士、社会福祉士として4年間で学んだことを活かし、社会に貢献できるよう努力していきたいと思います。ありがとうございました。



卒業生のことば

口腔生命福祉学科4年 鷲谷 芙美子

今回、「卒業生のことば」という題で原稿の依頼をいただき、「とうとう自分たちが卒業する時がきたんだなあ、学生がついに終わるんだなあ、まだ遊んでいたかったなあ」と第一に感じました。何を書こうかとこの4年間を振り返ってみると本当にあつという間で、つい何ヶ月か前まではJKだった入学当時の18歳の自分があとわずかです。社会人として働き始めているのかと思うと感慨深い気持ちになります（という数か月後のために国家試験の勉強の合間にこの文章を書いています）。

1年次は初めての一人暮らし、初めての土地での生活に不安を抱きながらも、新たに始まるキャンパスライフというものに胸を膨らませていました。五十嵐キャンパスでの生活はたった1年で終わってしまいましたが、たくさんのサークルからの勧誘や学食、大きな講堂、履修登録などThe・大学というものを味わうことができました。

2年次は歯科の実習やPBLがはじまったり、自分たちの講義室があることによって学科のみならずのかかわりも一気に増えたりと環境ががらりと変わった一年でした。高校までとは違いより自主的な学習が求められるPBLに面倒くささを感じるときも正直ありましたが、学生同士の相互実習など楽しいと思えることも多くありました。

3年次では新たに福祉のカリキュラムが始まり、社会系の科目が苦手な私にとっては、法律や時代の流れ、各国での違いなど福祉に関するレジュメは呪文のようにみえ、頭がパンクする思いでした。後期には病院での実習も少しずつ始まり、週2日の午前だけでしたが自分の知識の無さや空気感に圧倒され、4年次から始まる臨床実習

に不安を募らせていました。

不安を抱えたまま迎えた4年次。緊張の連続で、毎日重い足取りで病院へ向かい、お昼の70分休みは、束の間の休息で気づいたらまた午後の診療へ向かうといった日々でした。また、1か月の福祉実習では言葉でのコミュニケーションが難しい方との接し方や食事介助など貴重な経験をさせていただきました。これらの実習を通して学ぶことはとても多く、自信につながり歯科衛生士として働くことへの覚悟や期待を改めて感じる事が出来ました。

そして、この4年間を乗り切り、楽しかった学生生活だと思えるのはお世話になった先生方、支えてくれた家族、元気いっぱいバスケット部、そして4年間ともに過ごし、週末の突然の飲み会の誘いにも来てくれる口腔のみんなをはじめとした方々の存在があったからだと思います。とても感謝しています。

卒業後はみんなそれぞれの道に進みこれまでのように簡単に集まることはできないかと思いますが、これからもぜひ、飲み会等誘ってください。

今後は、これまでに学んだことを活かし福祉の視点からも考えられる歯科衛生士として日々精進していきたいと思えます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。



卒業おめでとう

令和元年度 歯学部卒業生名簿

歯学科

番号	氏名
1	相澤 有香
2	泉 結菜
3	板 離子
4	浦崎 沙羅
5	大内 峻
6	大久保 光
7	大野 晴日
8	大藤 南々帆
9	奥山 道代
10	鬼形 知実
11	小野 すみれ
12	笠原 公輝
13	川田 里美
14	熊木 貴大
15	小早川 直哉
16	小林 夏実
17	小林 由奈
18	酒井 佑樹
19	柴田 瑛治
20	園辺 悠
21	高田 翔
22	滝澤 史雄
23	田中 凜太郎
24	田村 洋貴
25	筒井 雄平
26	寺門 優希
27	野村 隆之
28	馬場 麗未
29	本凶 元希
30	松田 きよら
31	水澤 可南子

口腔生命福祉学科

番号	氏名
1	岩間 沙蘭
2	宇佐見 早希
3	柿崎 麻友子
4	霞流 沙代
5	坂井 鮎
6	荘司 菜
7	白倉 未唯
8	高山 恵利
9	竹野 百華
10	橋本 真由
11	藤井 梨紗子
12	丸山 京子
13	深山 稚子
14	村井 華
15	村野 幸子
16	目黒 夏海
17	柳沢 南
18	山田 真子
19	吉岡 明穂
20	鷺谷 芙美子
21	保坂 菜里美
22	徳竹 妙香
23	渡邊 朱音
24	橋本 沙央梨

大学院修了にあたり

大学院修了にあたり

包括歯科補綴学分野 児玉匠平

大学院の4年を振り返ると、何も覚えていないほどに楽しく（本当に覚えていない）めまぐるしい生活の日々でした。振り返ると、ギリギリ滑り込みの国家試験合格から研修Bコースでようやく歯科医療の入り口に立ち、大学院と開業医の間で悩みに悩んで大学院進学を決めたあの年の瀬、すべてが昨日のように感じます。

自分がいつから義歯を好きになったのかについては分からないほど、自然と興味がそこにありました。学生時代の義歯診療科の先生方、とりわけ熱血技工士の先生のとて人間臭く臨床への真摯な姿勢に打たれたのかもしれませんが、6年生の頃に小野高裕先生という何やらすごい先生が赴任するらしい、と知った時もワクワクしたのを覚えています。今思えば歯科医師である父も同じように義歯治療が好きでしたね。その頃の年齢は周りの影響を受けやすい時分ですから、知らず知らずのうちに進路は決まっていきました。義歯診療科での臨床研修によってさらに義歯に対する興味が増し、外の世界の魅力と悩みながらも大学院進学を決め、そこからの3年間はひたすら臨床に打ち込むのみでした。刺激的ながらも心休まる医局の先生方に多くを学びながら、臨床と技工の日々を過ごし、気づいたら3年生の夏が終わろうとしていました。そこでようやく3年生の秋に遅めの学会発表デビューを果たし、運よく賞をいただきました。舌圧と舌運動というテーマで研究を始め、今現在は卒業論文を必死に書いている真最中です。当講座の研究は臨床に直結した内容のものがほとんどで、非常に興味を持ちやすい内容でし

た。当時の指導医の藤原先生に舌の運動について教えていただき、とても新鮮な気持ちでスタートしたのを覚えています。当然ながら日々の補綴臨床でも舌は密接に関係しており、とりわけ当科は顎補綴の症例も多いですから、臨床への考え方にとて生かされたと思います。超高齢社会の今日、訪問診療のニーズも高まり同時に義歯のニーズも増えています。当講座の大学院生は出張先で訪問診療に携わる機会が多いことも、非常に恵まれている環境だと思いました。

自分は新たなチャレンジをするときが一番ワクワクします。自分の努力ですべて決まるとも言われますが、その努力は十分な環境が土台としてあってこそものだと思います。その点、大学院生活は自分次第でいくらかでもチャレンジできる素晴らしい環境であったと、感謝の気持ちで一杯です。後輩の皆さんがもし進路で迷っているようならオススメしたいですね。

最後になりましたが小野高裕教授、堀一浩准教授、藤原茂弘先生をはじめ、包括歯科補綴学分野の先生方に心より感謝を申し上げます。



DRS (サンディエゴ)
左から堀先生、小野先生、筆者

大学院修了にあたり

歯科矯正学分野 深 町 直 哉

私が新潟大学に来たのは研修医の時でした。慣れない環境の中、歯科総合診療部での研修生活がスタートし、あっという間に1年が過ぎ、矯正科の大学院に進学しました。社会人となったのも束の間、再び4年間も学生生活をするのかと思っていましたが、気づけば大学院も修了間近となりました。

大学院生といえば日々のカリキュラムと研究ですが、入局当初は矯正についての知識や技術もないため、治療のメカニクスの勉強、診断の準備、セファログラムのトレース、ワイヤー曲げの練習や模型作りなどやる事が多く、研究を行う余裕がありませんでした。何をやるにも時間がかかっていたため、夜中まで大学に残り技工物を作っていたのは、今となってはいい思い出です。それでも、日々の努力で少しずつではありますが、知識や技術を身につけ時間的余裕ができ、研究も並行して行うことができました。まだまだ未熟ですので、一人前の矯正科医として活躍できるように今後とも精進して参りたいと思います。

私の研究テーマは「顎顔面形態と咀嚼能力との関連性」です。特に、咀嚼機能異常があるとされる骨格性下顎前突症患者を対象としました。研究テーマの立案から論文の執筆まで初めてで戸惑いや苦労は多くありましたが、自分で一から行うことで考える力や読解力などを養い、様々なことを学ぶことができました。また、国内外で研究発表を行わせていただき、多くの場所を訪れ、出会いや異文化に触れることができたことも貴重な体験

でした。特に、大学院3年生の時にフランスのニースで開催された学会にて発表させていただいた際は、同期と二人だけということもあり、不安なことや苦労したこともたくさんありましたが、日本とは違う海外特有の雰囲気味わうことができ、掛け替えのない思い出となりました。

臨床と研究で慌ただしく大変な4年間でしたが、真摯に勉学に励めたのは、気軽に相談のできる同期や先輩、後輩の存在が大きいと思います。この4年間で学んだことを糧として今後より一層精進して参りたいと思います。最後になりますが、ご指導を賜りました齋藤功教授、指導医の坂上馨先生をはじめとする歯科矯正学分野の先生、包括歯科補綴学分野の小野高裕教授、ならびに同門の先生には心より御礼申し上げます。



大学院修了にあたり

新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学
専攻博士前期課程2年 小松彩夏

この度、2年間の大学院生活もあとわずかになりました。この文章を執筆するにあたり、大学院入学から今までの2年間を振り返ってみることにしました。

私は歯科系・福祉系の研究ではなく、以前から興味を持っていた脳の研究を口腔生化学分野にて行いました。興味を持っていたとはいえ、脳に関して授業を受けたことはなかったため、基本的な知識が足りず論文や関連書籍を自力で読んで理解することから始めました。論文を読むにあたって、大学生までの生活で触れてこなかった専門用語と初めて英語で向き合うことになりました。数行読むでは関連書籍等で調べ、また論文を読み進めての繰り返しで1本の論文を読むのに時間がか

かってしまい、基礎知識を早く身につけたいのになかなか進まず焦る日が続きました。実験では仮説と全く違う結果が出て頭を抱えることや、思うように実験が進まず落ち込むこともありました。しかし、諦めずに日々の実験を頑張り日本神経化学会という神経化学を専門にした研究者が集まる学会に参加して発表をおこなうことができたことで、失敗に怯えず努力を重ねることが研究を行っていくにあたって重要なのだと実感することができました。

大学院修了後、私は後期課程への進学を予定しています。前期課程で学んだこと、また学び足りていなかったところを追求し、3年間頑張っていたと思います。

末筆となりましたが、2年間お世話になりました照沼美穂教授、前期課程での担当教員になっていただいたステガロク・ロクサーナ先生、またご指導いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。



令和元年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	鈴木 絢子 （口腔生命科学）	Development of Microstructured Fish Scale Collagen Scaffolds to Manufacture a Tissue-Engineered Oral Mucosa Equivalent （マイクロパターン化した魚うろこコラーゲン足場材を用いた培養口腔粘膜の開発）
博士（歯学）	多賀 智治 （口腔生命科学）	更年期世代の女性における舌痛に関連する要因の検討
博士（歯学）	山崎 麻衣子 （口腔生命科学）	オトガイ神経損傷後の三叉神経節におけるBDNF産生について
博士（歯学）	SUYONO Benso Sulijaya （口腔生命科学）	The anti-inflammatory effect of 10-oxo-trans-11-0 ctadecenoic acid (KetoC) on RAW 264.7 cells stimulated with Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide. （Porphyromonas gingivalis LPS刺激RAW264.7細胞における新規機能性脂肪酸 KetoCの抗炎症作用）
博士（歯学）	溝口 奈菜 （口腔生命科学）	Association of hyper-low-density lipoprotein and hypo-high-density lipoprotein cholesterolemia with low salivary flow rates in Japanese community-dwelling elders （日本人地域在住高齢者における高LDL血症および低HDL血症と唾液流量低下との関連）
博士（歯学）	鈴木 裕希 （口腔生命科学）	Effects of sub-minimum inhibitory concentration of chlorhexidine gluconate on development of in vitro multi-species biofilms （Sub-MICのグルコン酸クロルヘキシジンがin vitro複合バイオフィルムに及ぼす影響）
博士（歯学）	Farah Ali Ibrahim Al-Omari （口腔生命科学）	Peri-Implant Bone Alterations under the Influence of Abutment Screw Preload Stress: an Animal Model （インプラントのアバットメントスクリューによるプレロードが周囲骨組織に与える影響）
博士（歯学）	高岡 由梨那 （口腔生命科学）	金属アレルギーと乾癬との関連に関する基礎的研究
博士（歯学）	清水 志保 （口腔生命科学）	Modulatory effects of repeated psychophysical stress on masseter muscle nociception in the nucleus raphe magnus of rats （情動ストレスは大縫線核(NRM)での咬筋侵害応答を増大させる）
博士（歯学）	中庭 麻友子 （口腔生命科学）	Primary cilia in murine palatal rugae development. （マウス口蓋皺壁発生における一次線毛の役割）
博士（歯学）	大澤 知朗 （口腔生命科学）	三次元CT画像を用いた骨格性下顎前突症患者における下顎骨偏位様相の検討
博士（歯学）	Supaluk Trakanant （口腔生命科学）	The role of microRNAs in midline formation during mandibular development （下顎正中形成におけるマイクロRNAの役割）
博士（歯学）	深町 直哉 （口腔生命科学）	全自動解析装置を用いた骨格性下顎前突症患者における咀嚼能力と顎顔面形態との関連
博士（歯学）	水越 優 （口腔生命科学）	Cellular Dynamics of the Periodontal Ligament During Orthodontic Tooth Movement. （矯正歯の移動中の歯根膜における細胞動態）
博士（歯学）	高地 いづみ （口腔生命科学）	Changes of bolus properties and the triggering of swallowing in healthy humans （健常者における咀嚼時食塊物性の変化と嚥下誘発）

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	古 志 奈緒美 （口腔生命科学）	Properties of hyoid muscle contraction during tongue lift measurement （舌挙上運動測定時における舌骨筋の筋活動特性）
博士（歯学）	竹 内 千華子 （口腔生命科学）	Effects of carbonated water on voluntary swallowing in healthy humans （健常者において炭酸水がもたらす随意嚥下運動への効果）
博士（歯学）	八 幡 晶 子 （口腔生命科学）	Comparison of the physical properties of coughing, huffing and swallowing in healthy adults （健常成人を対象とした咳嗽、ハフティング、嚥下の運動学的特性の比較）
博士（歯学）	吉 原 翠 （口腔生命科学）	Sustained laryngeal TRPV1 activation inhibits mechanically evoked swallows in anesthetized rats （麻酔ラットにおいて持続的TRPV1チャンネル活性化がもたらす機械刺激誘発性嚥下の抑制）
博士（歯学）	上 原 文 子 （口腔生命科学）	Differentiation of Feeding Behaviors based on the Lissajous Analysis of Masseter and Supra-hyoid Muscle Activity （咬筋・舌骨上筋群筋活動様相の違いから摂食様式を判別する新たな試み）
博士（歯学）	兒 玉 匠 平 （口腔生命科学）	食塊量の違いが液体嚥下時の舌運動と舌圧発現様相に及ぼす影響 （口腔生命科学）
博士（歯学）	重 本 心 平 （口腔生命科学）	総合病院入院中の嚥下障害患者における栄養リスク状態に関連する因子 （口腔生命科学）
博士（歯学）	荻 野 奈保子 （口腔生命科学）	Evaluation of factors affecting health-related quality of life in patients treated for oral cancer （口腔がん患者の健康関連QOLに影響を及ぼす要因の評価）
博士（歯学）	小野田 紀 生 （口腔生命科学）	Evaluation of oral health related QOL in patients with temporomandibular disorders （顎関節症患者における口腔関連QOLの評価）
博士（歯学）	竹 内 涼 子 （口腔生命科学）	Exosomes from conditioned media of bone marrow-derived mesenchymal stem cells promote bone regeneration by enhancing angiogenesis （骨髄間葉系幹細胞培養上清由来エクソソームは血管新生を介した骨再生を促進する）
博士（歯学）	原 太 一 （口腔生命科学）	Comparison of three-dimensional facial morphologies acquired by digital stereophotogrammetry imaging and computed tomography （デジタル立体写真計測法とCTにおける三次元顔貌形態の比較）
博士（歯学）	西 田 洋 平 （口腔生命科学）	Vascularization via activation of VEGF-VEGFR signaling is essential for peripheral nerve regeneration （VEGF-VEGFRシグナル伝達系を介した血管新生は末梢神経再生に必須である）
博士（学術）	小田島 祐美子 （口腔生命科学）	75歳自立高齢者の肉の脂身を好んで食べる指向に関する考察 （口腔生命科学）
博士（歯学）	清 野 雄 多 （口腔生命科学）	Three-dimensional configuration of apical epithelial compartments including stem cell niches in guinea pig cheek teeth （モルモット臼歯における上皮幹細胞ニッチを含む形成端上皮コンパートメントの三次元立体構築）

令和元年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名

専攻分野の名称	氏名（専攻）	論文名
修士 (口腔保健福祉学)	小 川 遥 香 (口腔生命福祉学)	歯科矯正治療患者に対する歯垢染色後の口腔内写真を用いた口腔衛生指導の有効性
修士 (口腔保健福祉学)	沖 津 佳 子 (口腔生命福祉学)	歯科衛生士による専門的口腔衛生管理に要する時間と臨床経験年数との検討
修士 (口腔保健福祉学)	小 松 彩 夏 (口腔生命福祉学)	アンモニアを介した新規アルツハイマー病発症機序の検討
修士 (口腔保健福祉学)	横 山 奈 央 (口腔生命福祉学)	インプラント手術前の歯科衛生士による専門的機械歯面清掃が一過性菌血症に及ぼす影響
博士 (口腔保健福祉学)	高 野 綾 子 (口腔生命福祉学)	歯科衛生士が行う専門的な処置の所要時間の実態とその関連要因
博士 (口腔保健福祉学)	花 谷 早希子 (口腔生命福祉学)	歯科衛生士の作業姿勢と筋骨格系障害の関連について
博士 (学術)	辻 友 美 (口腔生命福祉学)	高齢者用食材への応用に向けた低温スチーミングを用いた豚肉の軟化



臨床研修修了にあたり

臨床研修修了にあたり

歯科研修医 沢田 詠見

2019年度歯科研修医プログラムAで研修いたしました。この場をお借りしまして、研修内容について記載したいと思います。研修施設を選択するための参考になれば幸いです。

業務内容は、診療、予診係、技工係があります。診療前にはプレチェックが必要であり、指導医の先生に治療内容をお伝えし、確認していただき、診療後にはフィードバックをいただきます。予診係は主に新患、急患対応を行い、技工係は歯科総合診療部の先生方のアシストを行います。同じ治療内容でも先生毎に異なる手技を何通りも拝見することができるため非常に勉強になります。また、毎週金曜日には歯科研修医へ向けたセミナーがあり、臨床に沿った知識を得ることができます。10月からは、保存科、補綴科、口腔外科それぞれの分野でCompetence Assessmentという診療を指導医の先生に評価していただく試験が始まり、合格すれば臨床研修修了へのワンステッ

プとなります。

さて、臨床研修修了後は即戦力が求められます。そのような中、歯科総合診療部には補綴系歯科、保存系歯科などの専門分野を経験された指導医の先生方がいらっしゃるため、それぞれの局面で専門性の高い考え方や治療内容を学ぶことができます。さらに、手技や考え方が間違っている場合、指摘とアドバイスをしてくださるためスキルアップを図れる大変恵まれた環境です。

これまで歯周治療、根管治療、歯冠修復、義歯製作、抜歯など多くの症例を経験しました。臨床研修では、歯科医師の基盤となる歯科治療の技術だけでなく、患者さんやスタッフとの関わり方、徹底した医療安全を学びました。今後は患者さんにとって最適な治療を提供できる歯科医師になれるように日々研鑽していこうと思います。

最後になりましたが、ご指導していただいた藤井先生、石崎先生、奥村先生をはじめとする総診スタッフの先生方、看護師さん、歯科衛生士さんの方々、同期の歯科研修医の先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。



臨床研修修了にあたり

歯周病科 研修医 那 須 優 介

この度、歯学部ニュースの執筆を賜りました、本学49期卒業の那須優介と申します。臨床研修修了にあたり、私の研修生活について紹介させていただきます。

私は学内・学外の両方を見たいという思いから、本学の歯科医師臨床研修プログラムBに応募しました。学内の専門診療科は歯周病科、学外の研修先は大阪府の西尾歯科を選択させていただきました。

前半は、大阪府茨木市にあります開業医の西尾歯科でお世話になりました。西尾歯科は19台の診療チェアを備え、歯科医師が10数人在籍している非常に大きな医院です。私もその一員として、一般診療から矯正、インプラント手術まで幅広い症例を経験させていただきました。先生方の指導も手厚く、様々なことに前向きに挑戦できる、研修医にとって最適な環境でした。休日もよく出かけて大阪の街を満喫し、充実した毎日でした。卒業直後の段階でこの医院で研修できたことは非常に幸運であったと感じています。

後半は、本学の執筆現在も研修中の歯周病科です。歯周病科における臨床研修では、指導医の先生が担当している外来患者さんを一緒に診療させていただいております。開業医と比べて自分で手

を動かす機会はやや減りましたが、歯周病を専門とする先生方の診療をマンツーマンで教わり、学生の頃には考えの及ばなかった発想や知識を学ぶことのできる貴重な日々を過ごしています。また、本学研修医のための学会参加支援制度により、福岡で開催された秋季歯周病学会にも参加する機会をいただきました。臨床と研究に関する様々なトピックに触れ、歯科界への視野がぐっと広がり、今後の成長へのモチベーションが高まりました。

臨床研修を通して多くの尊敬する先生方に出会い、歯科医師としての自分の将来像を描くうえで様々な刺激を受けました。最後になりますが、今回の研修にあたってお世話になった皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。臨床研修での貴重な経験を活かして、これからも精進していきたいと思っております。

